

鳴門海峡の渦潮の、世界遺産申請に向けて —差別侵食を探る真冬の地形測量と石たたき調査—



自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

加藤 茂弘



寒い中で岩場を登り、測定現場へ移動する(加藤)



波打ち際で岩石強度を測定する(加藤・生野)

岩石の風化や侵食に対する抵抗性の違いが原因で侵食量に違いが生じるという**差別侵食**によって造られる地形が、組織地形です。

鳴門海峡の渦潮を生み出す海峡部の地形も**和泉層群の砂岩と泥岩の硬さの違い**による差別侵食で造られた組織地形の一つと考えられます。

これを実証するため、砂岩と泥岩で高さの異なる岩石海岸を見つけ出し、**地形の凹凸を測量**するとともに、シュミットハンマーを用いて**各岩石の硬さを測る**石たたき調査を続けてきました。

暖かい淡路島といえども、厳寒の1～2月の海岸の寒さは格別です。還暦を超えて体力が落ちていく中、岩場を上り下りし、硬い石ころの上を歩き回るのには身に応えます。転んで腰をしたたかに打ち、しばらくの間、起き上がれなかったこともありました。苦勞して得た調査成果は、**2026年1月発行の博物館紀要**で、ようやく論文として発表できることになりました。

野外調査を軸に30年以上も活動を続けてきた研究者として、今後も**生涯現役**を目標としてがんばりたいと思います。



岩石海岸の地形の凹凸を測量する(加藤・生野)



夕日を背景に満潮のなかで地形測量を続ける(加藤)